

# 平成28年度 東京都立青山高等学校

## 推薦に基づく選抜

### 小論文

注 意

- 1 問題は **1** と **2** で、6 ページにわたって印刷してあります。  
解答用紙 **1** と解答用紙 **2** は、この中にそれぞれ1枚はさんであります。
- 2 検査時間は50分で、終わりは午前11時45分です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えに字数制限がある場合には、  
、 や 。 や 「 などそれぞれ字数に数えなさい。また、数字を用いるときは、1マスに2字記入しなさい。
- 6 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 7 受検番号を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

(空白のページ)

(空白のページ)

1 次の文章を読み、下の問に答えなさい。

1931（昭和6）年に始まった満州事変以降、太平洋戦争が終わるまで、日本は中国の東北地方などに多くの人々を移民として送り出した。この移民のことを満蒙開拓団という。表1はその出身道府県別人数（上位5道府県）を表したものである。

問 先生と生徒の会話文を参考に表1の **A** にあてはまる道府県名を答えなさい。そして、その道府県の人々が満蒙開拓団として移民することになった理由を、会話文や略年表、グラフ、地形図の資料すべてを利用して、各資料から読み取ったことをあげながら200字程度で述べなさい。

先生： 満蒙開拓団の出身道府県について調べましょう。表1を見てください。

生徒： 多くの人々が満蒙開拓団として日本を離れています。

先生： 表1では満蒙開拓団として移民した人数が一番多い道府県名が **A** となっていますが、どこか分かりますか。

生徒： 何か参考になることを教えていただけませんか。

先生： **A** では江戸時代の終わり頃から養蚕業が発展し、明治以降、農村地帯には生糸を生産する小工場が数多く生まれました。原料の繭を供給する養蚕農家もたくさんありました。

生徒： 当時、日本にとって生糸は重要な輸出品だったのですね。

先生： そうです。特に、日露戦争後にはアメリカ合衆国向けを中心に生糸の輸出が増大したので、多くの利益を得た人もいました。

生徒： そこでは現在も養蚕や製糸業は盛んなのですか。

先生： 太平洋戦争後は、養蚕や製糸業に代わりカメラや時計などを製造する精密機械工業が発展しています。また、盆地の周辺に広がる扇状地では果樹栽培が盛んに行われています。特にりんごの生産量は青森県に次いで全国第2位です。

生徒： だんだん分かってきました。

先生： 地形図も見てください。参考になることがあるかも知れません。

生徒： ありがとうございます。分かりました。現在では新幹線も通っていて、かつて冬季オリンピックも開催されたところですね。

表1 満蒙開拓団の出身道府県別人数（上位5道府県）

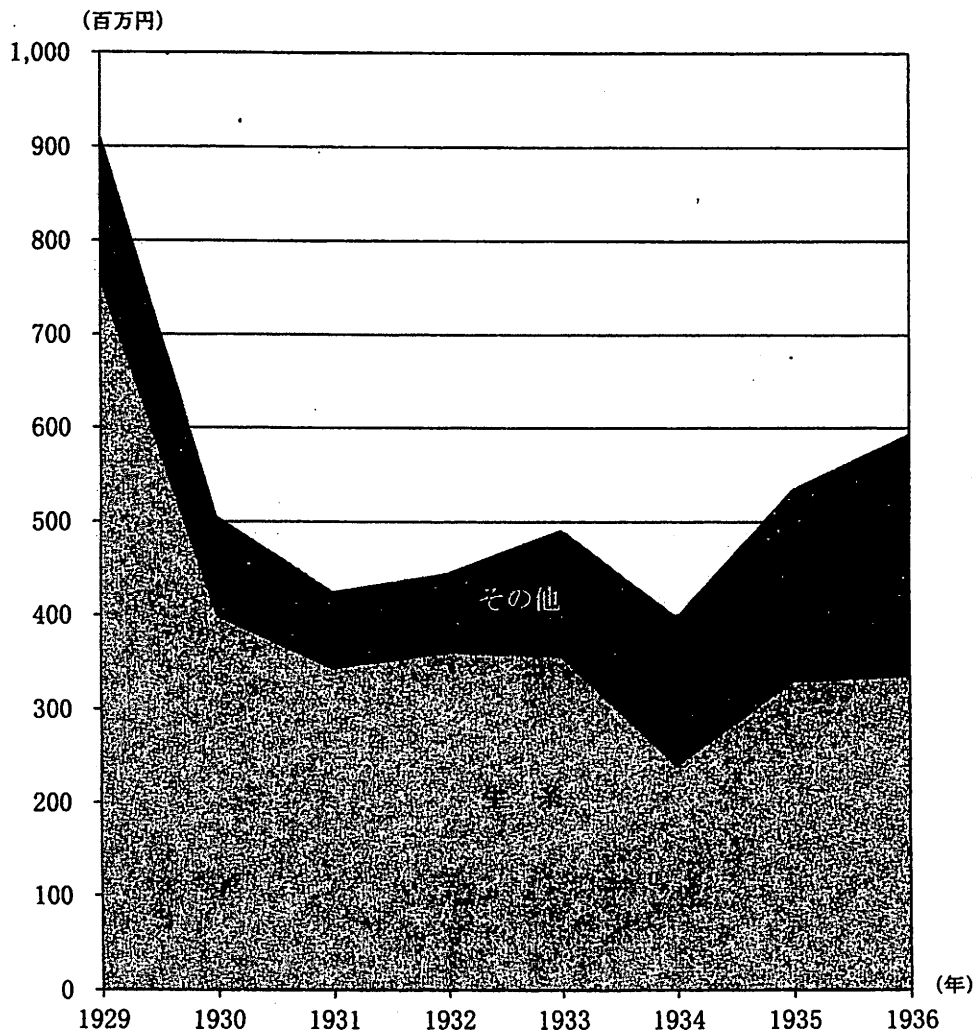
道府県	満蒙開拓団として 移民した人数（人）	全満蒙開拓団に 占める割合（%）
1位 <b>A</b>	31,264	14.2
2位 山形	13,252	6.0
3位 宮城	10,180	4.6
4位 熊本	9,979	4.5
5位 福島	9,576	4.3

（『昭和国勢総覧』などより作成）

略年表

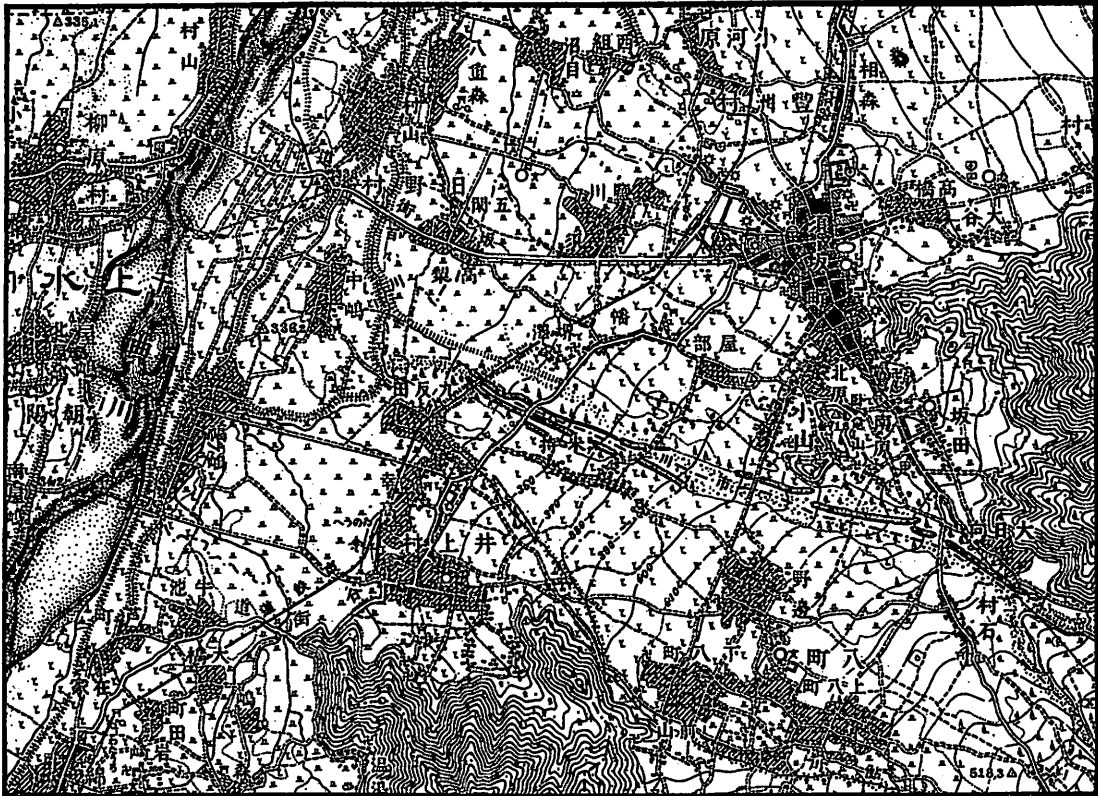
年	出来事
1904 (明治 37)	日露戦争が始まる
1909 (明治 42)	日本が世界最大の生糸輸出国になる
1914 (大正 3)	第一次世界大戦が始まる
1929 (昭和 4)	ニューヨークのウォール街で株の大暴落が起こる
1931 (昭和 6)	満州事変が始まる
1932 (昭和 7)	日本により満州国が建国される
1937 (昭和 12)	日中戦争が始まる
1941 (昭和 16)	太平洋戦争が始まる

グラフ 日本からアメリカ合衆国への輸出額



(『太平洋に於ける国際経済関係』より作成)

地形図 1927 (昭和2) 年



主な記号

∩ ∩  
∩ ∩ 桑畑

∩ ∩  
∩ ∩ 田

(大日本帝国陸地測量部 50,000 分の 1 地形図「須坂」, 1927 (昭和2) 年発行)

地形図 1965 (昭和40) 年



主な記号

- △ 果樹園
- △ 田

(国土地理院発行 50,000 分の 1 地形図「須坂」, 1965 (昭和40) 年発行に一部加筆)

2 次の文章を読み、下の問に答えなさい。

自然界で動物たちは、同種の個体どうしがさまざまな関係をもちながら生活している。

ある個体が生活している区域に同種の別の個体が入ってくると、それを追い払ってその区域を守ることがある。このように、ある個体が別の個体を追い払い、占有する区域をなわばりという。

例えば、アオハダトンボの雄は池などの水面になわばりをもち、同種の雄が来ると追い払うが、雌が来ると交尾してなわばりの中で産卵させる（図1参照）。また、アユは岩の表面の藻を食べて生活し、雌雄とも単独でなわばりをもち成長する。

なわばりの中には資源がある。資源とは、生物が生きていく上で、または子孫を残す上で役に立つものである。アオハダトンボの場合は、雌が産卵するのに適した水辺であり、アユの場合は、餌となる岩の表面の藻である。

また、生息場所の中に資源の豊かな場所と少ない場所があるとき、資源の豊かな場所をなわばりにできれば得られる利益は大きい、そうでない場合は利益が小さい。このように、なわばりにはその質に差ができる場合がある。

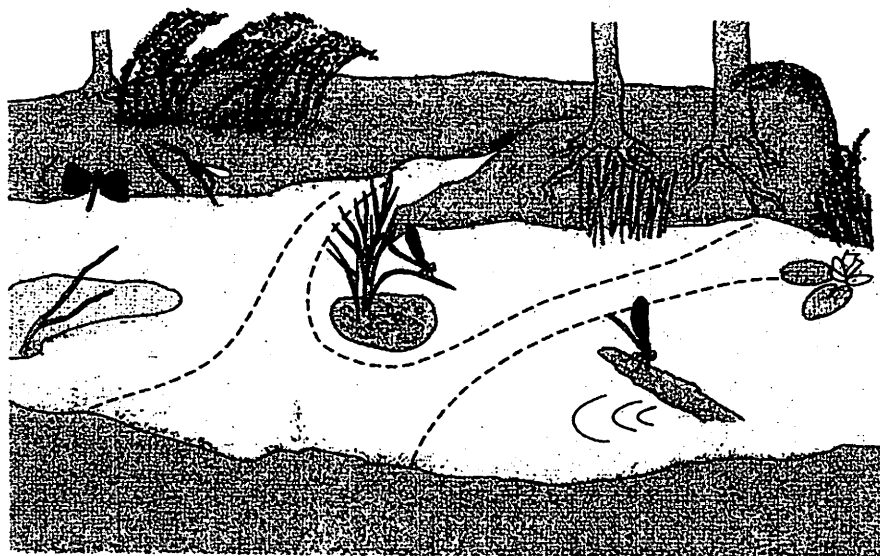


図1 アオハダトンボに近縁なトンボの一種のなわばり行動  
破線はそれぞれの雄のなわばりの境界を示す。

(日本生態学会編『生態学入門第2版』より作成)



問 北アメリカ大陸に広く分布するハゴロモガラスという鳥がいる(図2)。この鳥は繁殖期に雄がなわばりをもち、一羽の雄のなわばりの中で一羽以上の雌が巣をつくって繁殖する。雌は雄のなわばりを訪れて、少しでも多くの子が残せるような雄を選び、そのなわばりの中で繁殖する。

質の高いなわばりをもつ雄と質の低いなわばりをもつ雄の二羽の雄がいる生息場所で、一羽の雌が、どちらかの雄のなわばりで巣をつくり始めている。そこに二羽目の雌がやってきた。この雌が一夫二妻(一羽の雄がなわばり内で二羽の雌と繁殖すること)になる場合について、図3を参考にして以下の(1)、(2)に答えなさい。

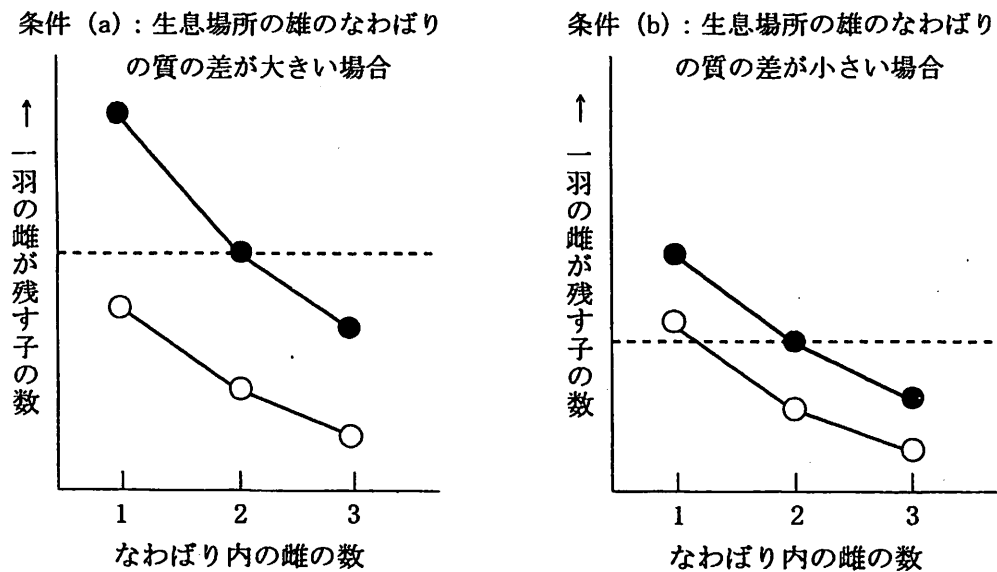


図3 なわばり内の雌の数と一羽の雌が残す子の数の関係

●は質の高いなわばり, ○は質の低いなわばりを示す。破線は質の高いなわばりで、一夫二妻のときに、一羽の雌が残す子の数を示す。

(日本生態学会編『生態学入門第2版』より作成)

(1) 次の文の  ,  に入る言葉を語群より選び、解答用紙に記入しなさい。

「生息場所の条件が  の場合に、  なわばりで一夫二妻ができる。」

<input type="text" value="1"/>	の語群	条件(a)	条件(b)
<input type="text" value="2"/>	の語群	質の高い	質の低い

(2) (1) のように答えた理由を述べなさい。